

今、日本から始まった がん撲滅への挑戦！

第3回 熊本地震復興支援

がん撲滅サミット®

<http://cancer-zero.com>

参加無料(要事前予約)

平成29年11月12日(日)

開場 12:30

開演 13:00

会場

パシフィコ横浜

会議センター1階メインホール

主催 | 公益財団法人 がん研究会有明病院 / 第3回がん撲滅サミット実行委員会

協賛

伊藤忠商事株式会社、武田薬品工業株式会社、中外製薬株式会社、第一三共株式会社、大鵬薬品工業株式会社、協和発酵キリン株式会社、小野薬品工業株式会社、帝人ファーマ株式会社、アステラス製薬株式会社、MSD株式会社、日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社、アストラゼネカ株式会社、サノフィ株式会社、アスピリアン・ジャパン株式会社、オリンパス株式会社、日本エマーゼンシーアシスタンス株式会社、TOTO株式会社、日本航空株式会社、ダイダン株式会社、TH総合法律事務所、生命保険協会、日本損害保険協会、日本建設業連合会、不動産協会、なだ万株式会社、株式会社オキ・コーポレーション、医療法人羅寿久会浅木病院、株式会社重岡、岡山県極真空手道連盟
ほか(順不同)

後援

厚生労働省、文部科学省、国土交通省、経済産業省、日本医療研究開発機構、横浜市、がん撲滅横浜市会議員連盟、日本医師会、日本経済団体連合会、日本商工会議所、経済同友会、日本製薬団体連合会、日本建設業連合会、生命保険協会、日本損害保険協会、一般社団法人 Medical Excellence JAPAN、読売新聞社(順不同)

高円宮妃殿下お言葉

本日は第1回がん撲滅サミットの開催が盛大に開催され、皆様とご一緒できますことを大変うれしく思います。

日本では2人に1人ががんにかかり、3人に1人ががんで亡くなると言われており、あらゆる病気の中で最も死亡率が高いとうかがっております。1981年より日本人の死因第1位を占めており、国民病ともいえるかもしれません。がんは全身のあらゆる部位で発症いたしますし、初期には自覚症状がないため、今でも発見されたときにはすでに進行していて、治療が遅れるケースが多くあります。しかし、早期発見により、完全に治療、治癒することも可能な病です。

医学とがんの闘いは実に長い歴史を持っており、がんの最初の記録は紀元前1500年ごろの古代エジプトの医学書にあります。そして紀元前1400年ごろ、古代ギリシャの医聖ヒポクラテスががんを蟹(かに)を意味するカルキノスという名前をあてがえました。その数百年後に医学論を書いた学者のアウルス・コリネリウス・ケルススがカルキノスをキャンサーとラテン語に訳したのです。英語では今でもがんのことをキャンサーと呼びますが、発がん物質を意味するカルシノシンはヒポクラテスのカルキノスが語源です。

これだけ長く闘っているのですから、がんは医学にとって永遠のテーマであり、人類は終わりなき闘いを繰り広げていく運命にあるのかもしれません。進化医学の出番も増えるのかもしれません。

いずれにしろ何事においても、攻めなければ負けしかない中、撲滅を目指すぐらいの意気込みが必須と感ずります。お身内にがん患者がいらっしゃる作家でジャーナリストの中見利男氏の「オールジャパンでがん撲滅に立ち上がろう」という呼びかけに、医学医療のみならずあらゆる分野の方が賛同されたことによって、ここに新たな挑戦が始まるのを心強く思っております。同じ志を持った多くの人間が同じ方向に動けば、大きなエネルギーがうまれます。かかげておられる目標の中でも、特にがん最先端医療において個々の患者、治療へ直結する医療のベストミックスを早急につくりあげていくことは重要であり、医師力を増進するのは当然として、患者力の向上を目指すのは実に意義深いことと考へます。

がんに関する先端医療や名医に関する情報を発信することや、患者主体の治療が出来る社会を再構築すること、患者や家族が的確な決断の出来る医療社会を再構築することなど、患者とその家族の立場にたって考へるのは日本の医療の本質ではないでしょうか。

インターネットを駆使したシステムや遠隔医療、遠隔治療などを含む医療は、日本のみならず医療の十分ではない国や地域に希望の光となることでしょう。その昔、医学においては視野を広く持つことが普通でしたが、研究がめざましく進み、医学が進歩した今日では分野ごとに孤立してしまっています。人間は社会的な動物であり、優れたコミュニケーション能力を有していますので、新しい時代の医療にはみながアクセスできる引き出しの多い総合的に意見交換が速やかにできる環境が整備されることを期待しております。

本日のがん撲滅サミットが学術的に実りと発展性のある大会となりますよう、またがんの撲滅、及びがん偏見の撲滅に一日でも早くつながりますよう心より願って開会式に向ける言葉と致します。

(2015年6月9日開催の第1回がん撲滅サミットにご来臨を賜りました)

第3回がん撲滅サミット

PROGRAM

- 12:30 開場（パシフィコ横浜会議センター1Fメインホール）
- 12:50 熊本地震復興支援チャリティー贈呈式
- 13:00～13:30 来賓ご挨拶並びにご紹介
- 13:30～13:50 開会宣言（大会長講演）「がん撲滅への挑戦とがんチーム医療」
第3回がん撲滅サミット 大会長
公益財団法人がん研究会有明病院 メディカルディレクター、名誉院長 武藤 徹一郎 氏

がん撲滅への戦略講演

- 13:50～14:10 「がん撲滅に向けた日本政府の挑戦」
内閣総理大臣補佐官 内閣官房健康・医療戦略室室長 和泉 洋人 氏
（代理）内閣審議官 兼 内閣官房健康・医療戦略室次長 鎌田 光明 氏
- 14:10～14:30 「がん対策加速化への道 2017」
前厚生労働事務次官 二川 一男 氏
- 14:30～14:50 「がん研究に対する AMED の取り組み：がん克服に向けて」
国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 理事 菱山 豊 氏
- 14:50～15:00 〈休憩〉

がん撲滅への戦術講演

- 15:00～15:20 「がん撲滅に向けた国立がん研究センターの挑戦」
国立がん研究センター がん対策情報センター センター長 若尾 文彦 氏
- 15:20～15:40 「患者中心のがんチーム医療最前線」
公益財団法人がん研究会有明病院 病院長 山口 俊晴 氏

NCI 長官賞受賞記念講演

- 15:40～16:10 「光免疫療法最前線」
NIH（米国国立衛生研究所）／NCI（米国国立がん研究所） 主任研究員 小林 久隆 氏
- 16:10～16:20 〈休憩〉

PROGRAM

16:20 ~ 17:50 「公開セカンドオピニオンーがんとの闘い方教えます Q&A ー」

- **大津 敦氏** (SCRUM-JAPAN [スクラム・ジャパン] プロジェクト統括)
国立研究開発法人 国立がん研究センター東病院 院長
- **大野 真司氏** (乳がん)
公益財団法人 がん研究会有明病院院長補佐、乳腺センター長
- **渡邊 昌彦氏** (大腸外科)
北里大学医学部外科教授、2017年 第55回日本癌治療学会学術集会 会長
- **矢野 秀朗氏** (下部消化管、腹膜播種)
国立国際医療研究センター病院 一般外科診療部門長、下部消化管外科医長
- **古瀬 純司氏** (腫瘍内科・抗がん剤)
杏林大学医学部内科学腫瘍内科教授、杏林大学病院がんセンター長
- **有賀 悦子氏** (緩和ケア)
帝京大学医学部緩和医療学講座教授・診療科長、
2017年 第22回日本緩和医療学会学術大会 大会長
- **真部 淳氏** (小児がん)
聖路加国際病院小児科 医長、日本小児がん研究グループ 副理事長
- **副島 研造氏** (呼吸器)
慶應義塾大学病院臨床研究推進センター 副センター長、
トランスレーショナルリサーチ部門長 教授
- **太田恵一朗氏** (食道・胃外科)
日本医科大学消化器外科 教授
- **鎌田 正氏** (重粒子線)
量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所 臨床研究クラスタ長、
放射線医学総合研究所病院 病院長
- **佐野 圭二氏** (肝胆膵外科)
帝京大学医学部外科学講座 教授
- **岡田 直美氏** (重粒子線及び集学的治療)
量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所
臨床研究クラスタ重粒子線治療研究部、腫瘍臨床研究チーム医長

スペシャルゲスト

小林 久隆氏 (NIH / NCI 主任研究員)

児玉 龍彦氏 (東京大学 先端科学技術研究センター教授)

解説：森 正樹氏 (第3回がん撲滅サミット 大会副会長)

大阪大学大学院医学系研究科消化器外科学 教授

2018年 第77回日本癌学会学術総会 会長

司会：中見 利男氏 (第3回がん撲滅サミット代表顧問、提唱者) 作家・ジャーナリスト

17:50 閉会の辞 「横浜宣言 2017」

第3回がん撲滅サミット大会長 武藤 徹一郎氏

エンディング

第3回がん撲滅サミット開会式

ご来賓ご紹介

内閣総理大臣 **安倍 晋三** 様

(メッセージ代読：内閣審議官 兼 内閣官房健康・医療戦略室次長 **鎌田光明** 様)

厚生労働大臣 **加藤 勝信** 様

第5期がん対策推進協議会会長代理 **山口 建** 様

NIH/NCI 主任研究員 **小林 久隆** 様

横浜市長 **林 文子** 様

(メッセージ代読：横浜副市長 **柏崎 誠** 様)

熊本県東京事務所長 **渡邊 純一** 様

公益財団法人がん研究会 病院長 **山口 俊晴** 様

国立研究開発法人 国立がん研究センター 理事長 **中益 斉** 様

(メッセージ代読：国立がん研究センターがん対策情報センター長 **若尾 文彦** 様)

日本皮膚科学会理事長 山梨大学学長 **島田 眞路** 様

地方独立行政法人大阪府立病院機構
大阪国際がんセンター 総長 **松浦 成昭** 様

公益財団法人がん研究会有明病院
メディカルディレクター・名誉院長 **武藤徹一郎** 大会長

大阪大学大学院医学系研究科消化器外科学教授
2018年第77回日本癌学会学術総会 会長 **森 正樹** 大会副会長

<順不同>

大会長挨拶



武藤 徹一郎

第3回がん撲滅サミット 大会長

公益財団法人がん研究会 有明病院メディカルディレクター、名誉院長

この度は第3回がん撲滅サミット開催にあたりご支援、ご来場いただき誠にありがとうございます。

1908年、公益財団法人がん研究会有明病院の母体となる「がん研究会」が山極勝三郎先生、渋沢栄一氏ほかの先達によって創立されましたが、その理念は『がん撲滅によって人類の福祉に貢献する』という崇高な理想でした。残念ながら109年経過した今でも私共は「がん」との闘いに苦しみ、時に打ちのめされそうになりながらも、未だにその存在を撲滅するに至っておりません。

しかし大事なことは、がん撲滅を目指しつつ、がんを克服したキャンサーサバイバーが普通に生活できる社会を育成するという理想の灯を決して消すことなく、日本人いや人類全体が心一つにしてこの目標に向けて起ち上がり、挑み続けることです。

私も参加させていただいたのですが、今年の4月1日に東京オペラシティで開催された『がん患者が歌う春の第九』では、がん患者とその家族、医療関係者など多勢の皆さんがベートーヴェンの第九を心一つにして格調高く、「歓喜の歌声」を高らかにホールに響かせました。がんになっても、がんを克服して生き生きと生きようとされている患者の皆さんが、次々に社会的に活躍、貢献できるというメッセージをお届けできたと思います。このような着実な歩みによって人類は、必ずがん撲滅、克服という理想郷に辿り着くことができると信じております。

お陰様で本日、『第3回がん撲滅サミット』を開催させていただきます。来賓の皆様よりご祝辞をいただいたのち会長による開会宣言、学術講演。そして政府高官によるがん撲滅戦略についてのご講演と、厚労省二川一男前事務次官による政府のがん対策に対するご講演をいただきます。

さらにAMED（日本医療研究開発機構）菱山豊理事、国立がん研究センターがん対策情報センター長 若尾文彦先生によるご講演のあと公益財団法人がん研究会有明病院病院長 山口俊晴氏より、患者中心のがんチーム医療に関するご講演をいただきます。

続いてNIH（米国国立衛生研究所）／NCI（米国国立がん研究所）主任研究員 小林久隆氏のNCI長官賞受賞を記念して、同氏が開発された光免疫療法の最前線についてお話をいただきます。そのあとは、いよいよ公開セカンドオピニオンの復活開催のち、会長の「横浜宣言2017」で閉会となります。

皆様に実りあるお時間を過ごしていただけますよう準備を進めて参りました。どうぞ、ごゆっくりお過ごしください。



安倍 晋三

内閣総理大臣

第3回がん撲滅サミットの開催、おめでとうございます。はじめに、医学の進歩に向けた皆様の毎日の取組に対して、心より敬意の念を表したいと思います。

我が国は、世界最高水準の平均寿命を達成し、人類誰もが願う長寿社会を現実のものとしてまいりました。一方、我が国は、欧米諸国、アジア諸国に先駆け、地球規模課題の一つである超高齢化に直面しており、健康長寿社会を実現することが大きな課題となっています。

このため、政府は、全閣僚からなる健康・医療戦略推進本部の下、医療分野の先端的研究開発や新産業創出等を推進し、健康寿命の更なる延伸に努めているところです。具体的には、医療分野の研究開発の中核組織である国立研究開発法人 日本医療研究開発機構（AMED）では、基礎から実用化まで切れ目ない研究支援を一体的に行っており、がん研究にも注力しています。

がん対策については、本年10月にがん対策推進基本計画を見直し、①科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実、②患者本位のがん医療の実現、③尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築を目標に掲げました。

この計画を踏まえ、いつ、どこにいても安心して納得できる医療や支援を受けられるよう引き続き取り組むとともに、ゲノム医療の関係者が参画する「がんゲノム医療推進コンソーシアム」を構築すること等により、がんを克服し、活力ある健康長寿社会を形成していきたいと考えています。

最後に第3回を迎えた本会合がご参加の皆様にとって実り多きものとなることを期待いたしまして私のメッセージといたします。

内閣官房長官 メッセージ



菅 義偉

内閣官房長官

第3回がん撲滅サミットの開催を心よりお慶び申し上げます。はじめに、医学の進歩に向け、日々、がん治療、がん研究に取り組んでおられる関係者の皆様の取組に対して心より敬意を表します。

がんは、昭和56年より死因の第1位であり、平成27年には、年間約37万人が亡くなり、生涯のうちに、約2人に1人が罹患し、3人に1人ががんで亡くなっているなど、依然として国民の生命と健康にとって重大な問題であります。

こうした状況を踏まえ、政府をあげてがん撲滅に向けた取組を積極的に推進すべく、先般、第3期がん対策推進基本計画を閣議決定したところで、計画は、2017～22年度の6年間のがん対策の指針となっており、がん検診受診率の目標の50%への引き上げや、がんゲノム治療の推進などが盛り込まれています。

また、研究開発分野については、「健康・医療戦略」に即して策定している「医療分野研究開発推進計画」において、基礎研究から実用化へ一貫して繋ぐ重点プロジェクトの一つの柱として、がん研究を位置付けており、29年度は180億円の研究費を運用しています。

さらに、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）を中心に、文部科学省、厚生労働省、経済産業省の三省と連携して研究開発を推進しており、膵がん早期診断のバイオマーカーの開発、卵巣がんの腹膜転移のメカニズム解明など、研究の成果が着実に見られているところです。

今後も、がん研究をはじめとして、健康長寿社会実現に向けた多くの施策を通じ、国民が健康で安心して暮らせる社会、医療体制を構築すべく努めていきたいと考えています。



加藤 勝信

厚生労働大臣

「第3回がん撲滅サミット」が開催されるに当たり、一言お祝いを申し上げます。産官学それぞれの立場でがん対策に取り組む皆様が集まり、3回目のがん撲滅サミットが盛大に開催されることは素晴らしいことです。開催にご尽力された関係者の皆様に、心より敬意を表します。

我が国では、平成18年に制定したがん対策基本法に基づき、総合的ながん対策を推進してまいりました。近年、放射線療法や化学療法、手術療法といったがん医療の目覚ましい進歩により、がん患者の5年相対生存率がこの10年で10%近く改善し、ついには60%を超えました。しかし、依然として、がんは我が国の死亡原因の第1位であり、引き続き、国を挙げてがん対策に取り組む必要があります。

がん対策推進基本計画の見直しでは、「がん予防」、「がん医療の充実」、「がんとの共生」の3本柱と、これらを支える基盤として「がん研究」、「人材育成」、「がん教育と普及啓発」を掲げています。

これまでも、がんの予防や医療の充実に取り組んできましたが、今回はがんとの共生を明確に打ち立てました。がんの診断早期の離職防止や治療と仕事の両立に関する支援、相談支援のあり方の検討などを通じて、がん患者の皆様が尊厳を持って安心して暮らせる社会が構築できるよう、全力で取り組んでまいります。

また、がんの研究については、近年、個人のゲノム情報の違いに応じて適切な治療を行う「ゲノム医療」への期待が高まっており、国内外において、様々な取組が進められています。我が国も、がんゲノム医療中核拠点病院の整備やゲノム情報に基づく適切な診療の提供、質の高いデータベースやバイオバンクの整備、革新的な治療研究の支援等を推進していきます。

ご参集の皆様方のご尽力により、本サミットが、「がん撲滅」への契機となることを期待しています。最後に、本サミットの成功と本日お集まりの皆様方の今後ますますのご発展、ご健勝を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

元復興大臣 メッセージ



根本 匠

衆議院議員・元復興大臣

「第3回がん撲滅サミット」の開催、誠におめでとうございます。

今年も、医療者をはじめとして、患者や家族の皆様、経済団体やマスメディアの方々がお集まりになり、本サミットが開催される運びとなったことは、非常に有意義なことであり、開催にご尽力された関係者の皆様に深く敬意を表します。

御承知のとおり、がんは、昭和56年以来、我が国の死亡原因の第1位です。国民の2人に1人は、生涯に一度はがんになり、3人に1人ががん で亡くなっています。

がん対策は我が国の大きな課題であり、行政機関、医療機関、研究機関、関係団体等が連携し、オールジャパンでがん対策に取り組んでいくことが重要です。

がん研究については、「がん研究10か年戦略」に基づき、がんの本態解明に関する研究をはじめとして、がんの予防法や早期発見手法に関する研究など、基礎研究から実用化を目指した研究までの一貫した研究が推進されています。

また、がん罹患後の社会生活に関する研究や、サバイバーシップに関する研究など現在のがん患者の皆様を取り巻く社会の状況に応じた研究も、今後行われていく予定です。

本サミットにおける、現場の医療者や研究者、がん患者・家族の皆様など、ご参加の皆様の活発なご議論を通じて、「がんの撲滅」という目標の達成に近づくことを、心より願っております。

最後に、第3回を迎えた本サミットがお集まりの皆様にとって実りのある場となりますとともに、今後の益々の御発展、御健勝を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。



岡藤 正広

伊藤忠商事株式会社 代表取締役社長

「第3回がん撲滅サミット」の開催を心よりお祝い申し上げます。また、がん撲滅に向け当サミット開催にご尽力されました関係者の皆様に心より敬意を表します。

伊藤忠商事では本年8月に「がんと両立支援施策」を導入することを発表致しました。

日本全体の状況と同様に、当社でも、がんと闘病しながら働く社員や、惜しくもがんで亡くられる社員も少なくありません。病気で亡くられる社員の9割ががんであるという実態を鑑み、当社としても、早急に対策を講じる必要があると判断し、まずはがんにならない為の「予防」、そして、もしがんに罹患してしまった場合の綿密な「治療」、更には安心して仕事を続けられるための「両立・共生」、この3つの観点から、会社として支援を強化していくこととしました。

きっかけとなったのは、がんが原因で今年3月に亡くなられた社員が、生前、私宛に病床から下さった一通のメールでした。そのメールでは、それまで自分が会社から受けた支援や、先輩・同僚・後輩・仲間からの支えに感謝をするという内容と共に、「伊藤忠は日本で一番いい会社だ」と言ってくれました。大変残念ながら、その社員はメールを出されて程なくお亡くなりになってしまいました。私は御霊前で、その社員の言である「伊藤忠は日本で一番いい会社」、これを必ず実現し、この会社を立派で誇れる会社にしてみせると誓いました。

業界内でも社員数が少ない当社にとって社員一人一人の役割は非常に大きく、全社員が健康であり、元気に活躍してもらうことは非常に重要な経営戦略の一つとなっています。

そうした中、社員ががんなどの大きな病気に負けることなく、過度に心配をすることなく、安心して働き続けられる環境の整備と、それを支援する体制を整えていくことは、病気になった社員自身の支えややる気・やりがいに繋がるというだけでなく、それを支える周囲の社員や組織の連帯と強化にも繋がり組織の活性化を生むものと考えています。

当社の取組みが日本のがん撲滅、がんと闘いながら働く方々の支援、そしてそうした取組みを進める企業の活性化に少しでも繋がるものであれば幸いです。

NIH (米国国立衛生研究所) / NCI (米国国立がん研究所) 主任研究員メッセージ



小林 久隆

NIH / NCI 主任研究員

本日ここに、「第3回がん撲滅サミット」が開催されるに当たり、一言お祝いを申し上げます。昨年に引き続き、3回目のがん撲滅サミットが盛大に開催されますことについてお祝い申し上げますと共に、開催にご尽力された関係者の皆様に心より敬意を表します。

米国では、がん対策に対しては長期にわたって政府が支援してきました。1939年のルーズベルト大統領のCancer Actによって、今所属しておりますNational Cancer Institute (NCI) が現在のNational Institutes of Health (NIH) が組織される前に設立され、今もNCI Directorは、NIH Directorと共に時の政権の人事でホワイトハウスより選任されます。1972年には、ニクソン大統領の第二次Cancer Act、さらに近年では昨年オバマ政権下でバイデン副大統領が主導したCancer Moonshotプログラムがまさに今、動いています。

米国NCIのミッションは、「がん死をゼロにすること」で、もちろん、これはアメリカ国民に限った目標ではなく、すべての人類に対しての目標ですので、この「がん撲滅サミット」と全く趣旨を同じくするものです。その組織のサポートの下で、私は20年以上にわたって新規がん治療の開発に携わってまいりました。

がん治療は少しずつ進歩してきましたが、私が医者になった30余年前と基本的には変わっていません。その間にIT、特にインターネットの普及などで社会は大きく変わってきました。

がん治療にも新たな技術で改革を起こす時期に来ていると思います。免疫治療などは、その先駆けになっているものであろうと思いますが、さらに新たな治療を開発し患者の皆様の選択肢を増やしていくことで、がんの医療は変わっていくことと思います。

アメリカでがん治療の開発に従事する日本人として、日本の皆様の活動を心強く感じるとともに、皆様と協力して、がん治療改革を進めていきたいと考えています。

最後に、本サミットの成功とお集まりの皆様方の今後ますますの御発展、御健勝を祈念いたしまして、私からのお祝いの言葉とさせていただきます。

一般社団法人日本医学会連合会長 メッセージ



門田 守人

一般社団法人日本医学会連合 会長

公益財団法人日本臓器移植ネットワーク 理事長

この度、「第3回がん撲滅サミット」が平成29年11月12日、パシフィコ横浜メインホールにて盛大に開催されますこと、心よりお慶び申し上げます。本サミットは、医療者だけでなく政・財・官、そして患者の皆様、ご家族の皆様と共にオールジャパンでがん撲滅に向けて取り組むことを目的として開催されるものとお聞きしておりますが、このように国民を挙げてがん撲滅に向かう姿勢は、現在のわが国のがん対策において最も重要なことであると信じております。

さて、本年は2007年にがん対策基本法が施行されて10年間のがん対策が実施されたこととなります。そして、第1期、第2期のがん対策推進基本計画10年が終了したところであります。

第1期基本計画では、「がん」に対する医療とがん患者の苦痛に対する医療が中心のがん対策であり、また第2期基本計画では、医療の枠を超えたがん患者の生活全体に対する対策の必要性が盛り込まれた形になっていました。すなわち、現時点における「がん」という病気、あるいはがん患者に関する空間的な広がりを見通した計画案であったと言えます。

ところが、全体目標の一つ「がんの年齢調整死亡率（75歳未満）の20%減少」については、死亡率は減少傾向であるものの、20%の達成は難しいという統計予測が示されております。

そこで、第3期基本計画では、進んでいる患者中心の対策に加え、患者を新たに発生させない対策も重要であるとの認識より、患者を発生させないがん対策を目指すことになりました。

そして、全体目標として「がん患者を含めた国民が、がんを知り、がんの克服を目指す。①科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実（がん予防）、②患者本位のがん医療の実現（がん医療の充実）、③尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築（がんとの共生）」を挙げました。がん予防では、喫煙率の減少、がん検診受診率の向上をはじめとしたがん対策のより一層の推進が必要としています。特に、今話題を呼んでいる受動喫煙については、協議会では「2020年までに受動喫煙をゼロにする」を満場一致で採択しました。

このようなことを含め、今、まさに患者さんが、国民が、がん対策に参加することが求められています。本サミットがその役割を果たして「がん撲滅」に貢献されることを期待しております。

公益財団法人がん研究会有明病院 病院長 メッセージ



山口 俊晴

公益財団法人 がん研究会有明病院 病院長

第3回がん撲滅サミットの開催誠におめでとうございます。また本大会にご来場いただきまして誠にありがとうございます。

およそ100年の歴史を持つ癌研究会附属病院が、がん研究会有明病院として現在の地に移転したのは2005年でした。その際に診療科別に対応していた医療体制を、臓器別チーム医療体制に変更するという大改革を行いました。

具体的には、外来や病棟を臓器別に再編することと、各臓器別にキャンサーボードという司令塔を置くことでした。

そして12年経過した今、このキャンサーボードを司令塔とした臓器別チーム医療は大きな成果を挙げて参りました。特に医療の最適化だけでなく、医療の透明性を向上させるという点で画期的な仕組みとなりました。治療方針が担当医だけでなく、当該診療科はもちろん、他の診療科の医師の目も通して検証されることで、担当医の独断や思い込みが排除されます。また、外来や病棟を同一にすることで、シームレスで迅速な医療が実現しました。

いわば患者中心の透明性の高い医療を実現するための最適のシステムであると思います。大きな投資は必要ではありません。医療者の自覚と管理者の決断さえあれば実行可能です。がん撲滅、克服という崇高な理念と共に、このようなシステムが日本でも広く普及することを期待したいと思います。本サミットが、そのような契機とインパクトを日本全体に与える存在になっていただければ幸いです。

最後になりましたが、本サミットの成功を心より祈念させていただきます。

国立研究開発法人 国立がん研究センター 理事長 メッセージ



中 釜 齊

国立研究開発法人 国立がん研究センター 理事長

第3回がん撲滅サミットの開催誠におめでとうございます。

1981年にがんが日本人の死因第一位となり、以来、がんによる死亡者数は年々増加の一途をたどっています。国民の二人に一人が一生に一度はがんにかかります。最近では、年間100万人以上の方が新たにがんを発症すると推定され、社会の高齢化に伴い、がん罹患者数は今後も増え続けることが想定されています。今や、がんは国民病と言えるでしょう。

一方で、がんの診断治療技術も確実に進歩しています。最近の全がんの5年相対生存率は6割を超えています。さらに改善していくためには、がんの原因究明と効果的な予防法を開発し、着実に実践することが重要です。がん検診の受診率向上による早期診断も重要な課題と言えます。

がん死亡率をさらに低減するには、がんの予防や早期診断技術の開発に加え、標準的治療の均霑化も重要な要素です。さらにこれからは、ゲノム情報に基づいて個々人に最適化されたがんゲノム医療（Precision Cancer Medicine）に大きな期待がかかっています。ゲノム解析技術の急速な進歩は、がん治療の個別化・最適化において大きな変革をもたらそうとしています。がん組織のゲノム解析の結果を臨床現場で活用するクリニカルシーケンス体制は、肺腺がんや消化器がんを中心に、実用化に向けて急速な進捗が見られます。クリニカルシーケンス体制の構築は、希少がん・小児がん等のアンメットニーズな課題を抱えるがん種に対する医療シーズ開発の点でも大きな期待が寄せられています。さらに、がんのゲノム解析技術の進歩による“個別化予防”（Precision Prevention）の領域への展開も期待できます。

一方で、がんの治癒率向上により、がんサバイバーの就労を含む社会との共生も重要なテーマです。がんサバイバーの離職率は約3割にも及ぶ現実があり、がん患者の仕事と治療の両立支援は、がん対策推進基本計画においても重点的に取り組むべき課題とされています。がん患者の就労支援を始めとする社会的な支援体制の一層の充実が望まれます。

全てのがん患者とそのご家族が、常に希望を持ち続けることができるがん医療の提供とその研究基盤の整備の推進が重要であると考えています。

最後になりましたが、本サミットの成功を心よりお祈り申し上げます。

横浜市長 メッセージ



林 文子

横浜市長

がん撲滅に向けて立ち上げられた「がん撲滅サミット」が、この横浜で3回目の開催を迎えられますことを、心よりお慶び申し上げます。

日頃から、がん治療の臨床と研究に携われ、がん撲滅に向けて取り組んでいらっしゃる皆様を、一昨年、昨年に続いて横浜にお迎えでき、大変光栄です。開催にあたりご尽力いただいております関係者の皆様に、改めて深く敬意を表します。

横浜市は、373万人の市民の皆様が暮らす日本最大の基礎自治体として、「横浜市がん撲滅対策推進条例」に基づき、総合的ながん対策を推進しています。がんの予防と早期発見を促し、適切な医療を受けられるようにするために、医療のみならず、福祉、雇用等、幅広い観点から、患者様ご本人やご家族への支援、がん研究の支援などに取り組んでいます。また、市の臨海部に位置する「京浜臨海部ライフイノベーション国際戦略総合特区」では、新規抗がん薬の開発など、革新的な製剤や医薬品開発を目指す創薬プロジェクトをはじめ、産官学連携による様々な研究開発が日夜進められています。

市民の皆様の健康をお支えし、医療の進化に貢献していくために、今後も関係者の皆様と手を携えて取り組んでいく所存です。

本サミットには、がん撲滅に向けた多岐にわたる取組における最新の知見が結集します。実り多い議論が交わされますこと、そして大変意義深い本サミットが、がんと闘う患者様とご家族の皆様の希望につながりますことを、願っております。

本日で参加の皆様のご発展、がん医療のさらなる進化を心より祈念いたしまして、私のお祝いの言葉とさせていただきます。

がん撲滅横浜市会議員連盟会長 メッセージ



田野井 一雄

がん撲滅横浜市会議員連盟会長

「第3回がん撲滅サミット」の開催、誠におめでとうございます。

本年もがん撲滅サミットが横浜で盛大に開催されますことを心よりお喜び申し上げます。

また、実行委員会や事務局の皆様をはじめ、関係者の皆様の御尽力に深く敬意を表します。

横浜市会は、平成18年11月、超党派の議員で「がん撲滅横浜市会議員連盟」を発足させました。その目的は、「がんの撲滅を目指し、がんの予防、早期発見、全ての市民が適切ながんに係る医療を受けられるようにするための総合的な対策をさらに推進していくこと」であり、高度先進医療施設の視察、がん対策をテーマとした勉強会、毎年行われるリレー・フォー・ライフへの参加などの活動を続けております。

そして、平成26年10月1日に施行された「横浜市がん撲滅対策推進条例」の制定に当たっては、これまでの活動を通じてがん患者やサバイバーの方々と向かい合ってきたこの議員連盟を中心に徹底的に議論を重ね、市議員全86名により議案が提出され、可決されました。

条例の提案に先立ち、幅広く市民の皆様のお意見を参考とするため、市民意見の募集を行いました。条例の趣旨に御賛同をいただくもの、御自身や御家族の体験を述べられ、具体的な提案をされているものなど、市民の皆様のがんに対する切実な思いの込められた様々な御意見をいただきました。

特に、がん撲滅という名称については、「力強い名称でよい」、「実際には撲滅はあり得ない、言葉が強過ぎる」という賛否両論それぞれの立場の御意見をいただきました。条例案を議論する過程においても、「科学的にはがん撲滅は不可能であり、ハードルが高過ぎる」という意見もありました。

しかし、「がん撲滅横浜市会議員連盟」という名称に込められた、何としてもがんによる死亡者を無くしたいという精神を反映し、また、身近な人をがんで亡くされた方々の、がんを撲滅してもらいたいという強い思いを受けとめ、力強い名称としたいということから、「横浜市がん撲滅対策推進条例」という名称とさせていただいたところでございます。

がん撲滅サミットも、「オールジャパンでがん撲滅に向けて立ち上がろう」という理念のもとに始まったと伺っておりますが、まさに、同じ思いであります。がん撲滅横浜市会議員連盟としても、このオールジャパンの一翼を担い、全力を挙げて取り組んで参りたいと考えております。

第3回のテーマは『今、日本から始まったがん撲滅への挑戦！』とのことで、各方面でがん撲滅に向けて先駆的な挑戦を続けてこられている方々のお話を伺えることは大変貴重なことと感じます。最後になりますが、本日のサミットが実りある場となりますよう、また、がん撲滅の機運がより一層高まり、がんと向き合う全ての関係者の皆様のより強力な支えとなることを願いまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

熊本県知事 メッセージ



蒲島 郁夫

熊本県知事

本日、がん治療の更なる改善を目指し取り組まれている関係者の皆様のご尽力により、第3回がん撲滅サミットが盛大に開催されますことをお祝い申し上げます。

また、熊本地震に際しまして、多方面から多大なご支援・ご協力を賜り、心から感謝申し上げます。熊本地震からの復旧・復興にあたっては、県民一体となって、全力で取り組んできました。引き続き、熊本の将来の発展に向けた創造的復興に取り組み、「将来世代にわたる県民総幸福量の最大化」を目指していきます。

今年もメッセージを書かせていただくにあたり、昨年にもまして、がんに対する思いが強くなりました。今年、私自身も早期の胃がんが見つかり、内視鏡手術を受けました。その後は健康状態に全く問題はありませんが、早期発見の重要性を再認識するとともに、今やがんは特別な病気ではないことを実感する機会となりました。

県では「がん患者を含む県民が、がんを知り、がん向き合い、共に支え合う社会」を目指して、①がんの予防と早期発見、②医療体制の整備、③患者や家族の療養生活の質の維持向上を3つの柱として掲げ、がん対策の推進に力を入れています。

特に、医療体制の整備において、熊本県のがん診療連携クリティカルパスである「私のカルテ」の普及を積極的に推進しております。「私のカルテ」は、拠点病院と地域の医療機関が連携し、患者の皆様身近で質の高い医療を円滑に提供するうえで重要な役割を担っており、全国的にも注目をいただいているところです。

国では、昨年、患者の皆様が安心して暮らせる社会を目指す視点などを加えて、がん対策基本法が一部改正され、今年、全体目標に「がん予防・がん検診の充実」などを盛り込んだ「第3期がん対策推進基本計画」が策定されました。

がん対策は、地方自治体も含めたオールジャパンで取り組む必要があります。本県でも、その基本計画を踏まえて、本県の「第3次がん対策推進計画」を策定し、更なるがん対策の充実を図ってまいります。

最後になりますが、本日のサミットが、お集まりのがん患者の皆様、そのご家族、医療者を初めとするその支援者の皆様にとって、大きな“つながり”となり、がん撲滅への希望の光となりますよう、お祈り申し上げます。メッセージといたします。

天国の坂田捺乃さんへ贈る 追悼文

第3回がん撲滅サミット代表顧問 中見 利男



昨年の2016年10月22日に開催されたがん撲滅サミット2016のステージで1人の少女が生きることの尊さ、何かに向かってチャレンジしていくことの大事さ、そして小児がんと闘っている同世代の子供たちに向かつてエールを送る予定でした。

当時、中学2年生だった坂田捺乃さんが、その人です。平成13年3月26日生まれの坂田捺乃さんは三沢市立三沢第一中学校時代に脳幹グリオーマという小児がんを発症しました。

小児がんと闘っている彼女のことを知ったのは、妻の友人の紹介でした。

2015年7月、小児がん撲滅を願っていた彼女に、がん撲滅サミット2016への登壇をお願いすると、リハビリ中の彼女から、こんなメールが返ってきました。

「ありがとうございます。ほかの子供たちのお役に立てるのでしたら頑張ります。でも、先生、私、緊張したら笑ってしまうので、どうしようかと思えます」

読書が好きだった彼女は、その一方で皆さんもお名前を聞けばご存じの国民的なアーティストの大ファンでした。手術の前や放射線治療中、そして病室でイヤホンを通じて、彼らの音楽に耳を傾け、がんを闘う勇気と前向きに生きていくパワーをもらっていたそうです。

同年9月に病気が再発し、その後、自宅治療で頑張っていたなっちゃんにもクリスマスが近づいてきました。ある日、ご両親が「なっちゃん、クリスマスプレゼント何が欲しい」と尋ねると、彼女は「私のものはいいいから、大好きなアーティストに小児がんで苦しんでいる子供たちや家族が元気になる歌を作って欲しい」

ご両親は困惑して顔を見合せました。彼女の夢があまりにも壮大で、お店で買えるようなリクエストではなかったからです。

「それ以外に、なっちゃんが欲しいものはないの?」と聞いても、「ない。あの人たちに私と同じように苦しんでいる子供たちや支えてくれている家族が元気になる歌を作って欲しいの」

この言葉を聞いたご両親は行動を起こそうと決意したのです。多くの人たちに、坂田捺乃さんの願いを伝え、少しでも彼女の夢を応援してほしいと奔走したのです。

お金では買えないプレゼント。しかも、同世代の小児がんで苦しんでいる子供たちを励ましてほしいという崇高で清らかな願い。彼女の願いだけでも、そのアーティストに届けようと皆が八方手を尽くしました。

がん撲滅サミット

追悼文

そして2016年1月のある日。父親の篤史さんの携帯に一本の電話がかかってきました。

「突然のお電話で失礼します。坂田捺乃さんのお父さんですか？」

その声は、あのアーティストご本人だったのです。しかし坂田捺乃さんの意識は混濁し、眠ったままの状態です。それでも篤史さんは捺乃さんの耳元に携帯電話を当ててあげました。かすかにアーティストの声が漏れてきます。

「なっちゃん！ なっちゃん！ 早く元気になってね。応援しているからね。東京の病院に入院することがあったら、必ずお見舞いに行くから頑張ってね。応援の歌はすぐにできなくても、僕らの歌の中から応援の歌になると思うものをみんなを選んで送るからね」

その後、坂田捺乃さんと小児がんで闘う子供たちのためにアーティストの方が選んだ曲が送られてきました。坂田捺乃さんの夢が奇跡を起こしたのです。

我々は心から感動を覚えました。自分だけではなく同世代の小児がんで闘う人たちを励ましてあげて欲しい。純粋な思いが人を動かすのだと。

しかし、その1ヶ月後の2016年2月6日、彼女はわずか14歳で天上の星になりました。

彼女から私に送られてきた最後のメールには『中見先生、私はしっかり勉強して女医さんになりたいと思います。女医さんになって小児がんの子どもたちをみんな治してあげたいんです』と強い決意が綴られていました。

星になった彼女の名前は、光明院天心桜華清童女。天女のように清らかな心で、地上で闘い続けるがん患者の皆さんを応援する少女という意味です。

私は思います。彼女の崇高な願いは小児がんを抱えて闘う子供たちだけでなく、我々に向けて託された夢だったのではないかと。

本日、闘病中だった彼女が、第1回がん撲滅サミット（2015年6月9日開催）に寄せてくれた手紙をご紹介します。

『がん撲滅サミットに参加された皆様にお手紙を差し上げるご無礼、どうかお許し下さい。また、リハビリ中のため手が思うように使えず、乱筆にて失礼いたします。

病気だと分かった日。私は怖くて怖くて涙が止まりませんでした。なぜ自分が、こんな病気になってしまったのだろうと悔しかったです。

今、退院してから検査がすごく怖いのです。病院で何度もとったMRIも大きな音がして、狭くてすごく怖いです。また病気が大きくなって、せっかく頑張った入院生活をまたやり直すことになったら、前と同じように治療はうまくいくのか。たくさん不安があります。

私は、脳幹部に腫瘍があります。先生からは手術では手が出せない所だと説明を受けました。だから腫瘍は小さくすることしかできません。一生この病気と離れられないのかもしれないかもしれません。すごく悔しいです。

でも、私の主治医の先生は、こう言ってくれました。

「泣いてもいいけど、泣いたら小さくなってくれるような弱い病気じゃない。だから一緒に闘おう」

私はこの言葉のおかげで、不安で泣いてしまうことがあっても、すぐに前向きになる事ができます。その先生の下には私と同じような病気の子供がたくさんいました。中には二回、三回と入院している子もいて驚きました。でも、みんな元気で明るく頑張っている姿を見て、私も前向きになれました。

私の母はずっと入院中、そばにいてくれました。いつも明るく私を笑わせてくれて元気をもらっていました。

でも中には、私より小さい子供が一人で寝泊まりしていました。私がお金のことでも家族のサポートのことでも、よい環境で治療を受けることができた、と、今、思っています。

しかし、すべての子供たちがそうではありません。気持ちを強くもって治療に臨むことが、私は大事だと思います。本人や家族が治療に集中できる環境作りが大切だと思います。

治療を受ける私たちにとって、周りのサポートはすごく重要です。大切な人がそばにいてくれば、きっと前向きな気持ちになれると思います。

私と同じような病気の子供たちの、がまんや不安な気持ちを少しでも減らしてほしいです。

私が病気になってから、中見先生や東京の病院の先生に助けられて、病気と闘うことができています。手術後に不安になったり、傷口が痛んだり、ワガママを言いたくなることもきっとあると思います。

そんな時、だれかがそばにいて、きっと力になるし、大事なことだと思います。

私は今まで、ニュースなどを何気なく見ていました。難病で海外に行くための募金を集めたりしているのを目にしました。早く治療をして、病気を治したいのにお金のことですべて困ってしまうのは、すごく大変だと思います。

私は自分の治療費のことなどを知りません。少し不安になったこともあったけど、父が「何も気にしなくていいんだからな」と言ってくれて、安心しました。また、弟が青森にいますが、父と祖父母が面どうを見て、母はずっと私につきそってくれました。

しかし、小児難病と闘っている子供たちが日本には、まだたくさんいると思います。

私の小さな力で何かできることはないかと思い、今、こうして手紙を書きました。

私の願いが届きますように。

坂田捺乃』

以下はご両親からいただいた第3回がん撲滅サミットへのメッセージです。

『娘の闘病生活が終わり1年9ヶ月余り。様々な感情と共に移り行く日々を、娘をいつも傍に感じつつ過ごしています。』

代表顧問、中見先生のお力添えにより、素晴らしい医師団に出会い、病気と向き合うための心のケアから始まり、主治医と共に強い気持ちで治療に臨みました。

娘も私たちも最後まで諦めず、その後も様々な医師と治療の可能性を探り、納得した治療を受けた結果として、寂しさを抱えながらも、前向きに生きようとする今があると感じています。

本日、がん撲滅サミットに参加されている患者、ご家族様のお悩みやご心配事もまた、様々でしょう。皆様が治療に向けたヒントを得られ、共に闘って頂ける医師に巡り合われる事を願ってやみません。

娘は最後まで病気と向き合い、また、同じ境遇の子供達に心を痛めておりました。

今回のサミットが、そのようなお子様方やそのご家族にとっても、ひとつの希望となりますことを心よりお祈りいたしております。』

我々、がん撲滅サミットは星になった彼女の夢を叶えるため、小児がん撲滅に挑戦していくことをここに誓います。

講演者プロフィール



むとう てついちろう
武藤 徹一郎

第3回がん撲滅サミット大会長
公益財団法人がん研究会有明病院メディカルディレクター、名誉院長

[略歴]

1963年東京大学医学部卒業。1970年より2年間、WHO奨学生としてロンドン St. Mark's 病院に留学。その後、東京大学医学部第一外科助手、大森赤十字病院外科部長等を経て、1991年東京大学医学部第一外科教授。1993年に東京大学医学部附属病院院長に就任（～1995年）。

専門は消化器癌とくに大腸癌。1999年財団法人癌研究会附属病院副院長、2002年同院長。2005年同院の移転により財団法人癌研究会有明病院院長に就任。2008年にメディカルディレクター、名誉院長に就任、現在に至る。東京大学名誉教授。対がん協会副会長、NPO法人健康医療開発機構理事長、財団法人癌研究会理事、東京地域チーム医療推進協議会（TeamNET）理事長等を務める。



かまた みつあき
鎌田 光明

内閣審議官 兼 内閣官房健康・医療戦略室次長

[略歴]

1986年旧厚生省入省。大臣官房総務課、保険局企画課、薬務局経済課等に所属後、1994年からジェトロ・ニューヨーク医薬品部長。その後、大臣官房国会連絡調整官、環境省浄化槽推進室長、医政局看護職員確保対策官、大臣官房広報室長、内閣参事官（総理官邸参事官室）、医政局経済課長、医薬食品局総務課長、国立国際医療研究センター国際医療協力局長等を経て2017年7月から現職。



ふたがわ かずお
二川 一男

前厚生労働事務次官

[略歴]

昭和55年3月 東京大学法学部卒業
昭和55年4月 厚生省入省
平成24年9月 厚生労働省大臣官房長
平成26年7月 厚生労働省医政局長
平成27年10月 厚生労働事務次官
平成29年7月 厚生労働事務次官退官

講演者プロフィール

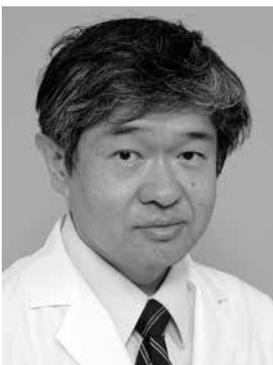


ひしやま ゆたか
菱山 豊

国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 理事

[略歴]

1985年 東京大学医学部保健学科卒、科学技術庁入庁
1995～98年 在ドイツ日本大使館書記官（科学技術、環境担当）
2001年1月 文部科学省研究振興局ライフサイエンス課生命倫理・安全対策室長
2003年7月 政策研究大学院大学教授
2005年7月 日本学術会議事務局参事官
2007年1月 文部科学省研究振興局ライフサイエンス課長
2009年7月 同省大臣官房文教施設企画部計画課長
2010年7月 独立行政法人科学技術振興機構経営企画部長
2012年4月 文部科学省研究振興局振興企画課長
2013年4月 同省大臣官房審議官・兼内閣審議官・内閣官房健康・医療戦略室次長
2013年10月 内閣審議官・内閣官房健康・医療戦略室次長
2015年4月 国立研究開発法人日本医療研究開発機構執行役
2015年4月 同機構理事
単著に「生命倫理ハンドブック」（築地書館）、「ライフサイエンス政策の現在」（勁草書房）



わか お ふみひこ
若尾 文彦

国立研究開発法人 国立がん研究センターがん対策情報センター センター長

[略歴]

1961年横浜市生まれ、1986年横浜市立大学医学部卒。国立がんセンター病院レジデント、がん専門修練医、放射線診断部医員、医長として、腹部実質臓器の画像診断に従事しながら、国立がんセンター情報副委員長として、医療情報システム構築、がん情報の発信などに取り組む。2006年がん対策情報センター開設に伴い、センター長補佐併任となり、ウェブサイト「がん情報サービス (gannjoho.jp)」等を通じた正しいがん情報発信、がん登録、がん医療の均てん化支援、たばこ対策支援など、がん対策の推進に取り組む。

2012年より現職。

東京大学大学院医学系研究科非常勤講師、京都大学大学院医学研究科非常勤講師など兼任

講演者プロフィール



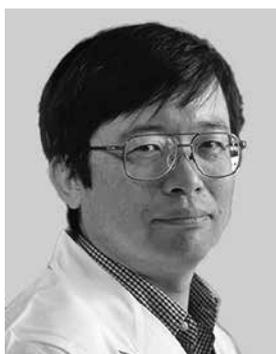
やまぐち としはる
山口 俊晴

公益財団法人がん研究会有明病院 病院長

[略歴]

- 1973年 京都府立医科大学卒
- 1977年 秋田大学医学部 文部教官助手
- 1982年 アメリカテキサス大学ヒューストン校留学 (NIH奨励研究員)
- 1995年 京都府立医科大学助教授 (第一外科)
- 2001年 財団法人癌研究会附属病院 消化器外科部長
- 2005年 財団法人癌研究会有明病院 消化器外科部長 消化器センター長就任
- 2008年 財団法人癌研究会有明病院 副院長
- 2015年7月 公益財団法人がん研究会有明病院 病院長

厚労省の関係として、社会保障審議会委員 (医療分科会)、先進医療評価委員会 座長、先進医療技術評価会議 座長を務める。また学会では、日本臨床外科学会 副会長、日本胃癌学会 名誉会員、国際胃癌学会 (IGCA) 理事、外科学会保険委員会連合 (外保連)、名誉会長を務める。



こばやし ひさたか
小林 久隆

NIH / NCI 主任研究員

[略歴]

- 昭和62年3月31日 京都大学医学部卒業
- 昭和62年6月1日 京都大学医学部放射線核医学科研修医員
- 昭和63年6月1日 国立京都病院放射線科レジデント
- 平成7年4月1日 京都大学医学部核医学画像診断学科医員
- 平成7年7月15日 米国国立保健衛生研究所 (NIH) Visiting postdoctoral fellow
- 平成10年7月1日 京都大学医学部映像医療学講座助手 (日立メデイコ寄附講座)
- 平成13年6月4日 Senior (visiting) fellow, Metabolism Branch, CCR/NCI, National Institutes of Health
- 平成16年6月1日 Chief Scientist, Molecular Imaging Program, CCR/NCI/NIH, 現在に至る

公開セカンドオピニオン

今、パシフィコ横浜が巨大な診察室に変わる！

～皆様のご質問にお答えするのは
がん医療最前線に立つ 15 人の名医～

ナビゲーター

なかみ としお
中見 利男

第3回がん撲滅サミット
代表顧問、提唱者
作家・ジャーナリスト

■皆様へのメッセージ

本日、世界に誇れる日本の医師の方々にご来場いただいた皆様のコラボレーションでパシフィコ横浜を巨大なセカンドオピニオンエリアに変えましょう。短い時間かもしれませんが、皆様方のご質問を心よりお待ちしております



おおつ あつし
大津 敦

国立研究開発法人国立がん研究センター東病院 院長
SCRUM-JAPAN プロジェクト統括

■皆様へのメッセージ

がんに対するお薬での治療（薬物療法）は最近大きく進歩しています。手術や放射線治療との組み合わせで治療する患者さんを増加させるとともに、手術ができない進行した患者さんに対しても薬物療法で長期間の生存が得られるようになってきました。

遺伝子解析技術の進歩などにより、がんの組織で起こっている様々な遺伝子異常を包括的に解析できるようになり、その結果に応じて最適な治療薬を選択する個別化治療が進んでいます。

当院が中心となって産学連携全国がんゲノムスクリーニング事業（SCRUM-Japan）を立ち上げ、全国 240 施設と製薬企業 16 社との共同で、肺・消化器がんの患者さんへ最適な治療薬を届けるプロジェクトを行っています。

また、昨今進歩が著しい免疫チェックポイント阻害剤などでも治療成績の向上を目指して新しいお薬の開発や併用などの様々な研究に取り組んでいます。がんに苦しむ患者さんに少しでも早くよりよい治療を届けることが出来るように日本全体で取り組んでまいります。

がん撲滅サミット



おおの しんじ
大野 真司

公益財団法人がん研究会有明病院院長補佐 乳腺センター長

■皆様へのメッセージ

がんの治療はととも進歩しています。手術技術・器具の進歩、放射線診断・治療機器の改良、新規薬剤の開発などにより高度な医療を提供できるようになり、予後（生存率）も著明に改善してきています。

特にがんの特性に応じて分子標的療法を投与するなど個別化治療が進んできました。

かつては新薬の保険承認は欧米諸国に比べて5年以上遅れる（ドラッグラグ）ことも少なくありませんでしたが、最近では国際共同試験によってドラッグラグも大きく短縮されるようになりました。

また、副作用に対する支持療法やこころのケアによって安心して安楽に治療を継続できるようになってきました。

一方で、治療のために仕事を辞めなくてはならないことがないよう就労の支援や、治療による外見の変化に対応するアピアランスなど、病気を抱える人が社会で生きていくことを支えることにも目が向けられるようになってきています。このような背景の中で皆様にはがん医療について知識を広げ、公開セカンドオピニオンを通して理解を深めていただきたいと思います。



わたなべ まさひこ
渡邊 昌彦

北里大学医学部外科 教授

■皆様へのメッセージ

皆様の不安をなくせるよう、誠意をもってお答えします。



やの ひであき
矢野 秀朗

国立国際医療研究センター病院 一般外科診療部門長、下部消化管外科医長

■皆様へのメッセージ

『がん』とひとことでいっても、人間と同様、多様で、様々な取り組みやアプローチが存在します。その選択は結局、患者さん自身のこれまでの人生経験・文化・宗教などに基づく価値観や社会環境などにより決定されるべきもので、必ずしも正解はないのではないかと思います。それを前提に、われわれは自らの技術・経験を最大限に生かし、五感の全てさらには第六感も駆使して、患者さんにとってベストと思われる方法を提示できるよう、日々精進しています。患者さん・ご家族の疑問点・不安の解消に少しでもお役に立てればと思います。



ふるせ じゅんじ
古瀬 純司

杏林大学医学部内科学腫瘍内科 教授、がんセンター長

■皆様へのメッセージ

「がん」はわが国の死亡原因第1位の難敵です。
しかし、さまざまな取り組みや医学の進歩で5年生存率も60%を超えてきました。私たちは、「がん」をよく知り、うまく付き合うことも大切です。
闘うときは闘う、無理をしないときは休む、そして、いい生活を送っていただくことを第一に考えていただきたいと思います。
社会は多様化の時代を迎え、インターネット、雑誌、テレビなど、さまざまな情報が飛び交っています。中には間違った情報も少なくありません。
正しい情報で、がんに振り回されず、その人に合った「付き合い方」を相談しましょう。今回のがん撲滅サミットで、いい情報を得ていただきたいと思います。



あるが えつこ
有賀 悦子

帝京大学医学部緩和医療学講座 教授、診療科長

■皆様へのメッセージ

緩和ケアは、がんと診断された時から気持ちのサポート、体の辛さの緩和、お金や仕事の相談にのること、未来に向けた生活と治療について共に考えることなどによって、それぞれの患者さんが持つ目標や希望に近づくよう支援していくものです。また、患者さんに留まらず、ご家族へのケアにも取り組んでいます。
緩和ケア病棟（ホスピス）が緩和ケアであると思っている方もいらっしゃるかもしれませんが、緩和ケアとは緩和ケア病棟に留まらず、急性期がん治療病院の中での緩和ケアチーム、緩和ケア外来、在宅緩和ケアという専門的な緩和ケアやがん治療医の医療者による基本的な緩和ケアと様々な提供体制があることも特徴です。
近年、こうした支援を受けることは予後（人生の長さ）により影響があることが分かってきました。支援を受けることの強みを知っていただきたいと思います。

がん撲滅サミット



まなべ じゅん
真部 淳

聖路加国際病院小児科 医長、日本小児がん研究グループ 副理事長

■皆様へのメッセージ

小児がんは1年の全国発生数が2,000人～2,500人という稀な疾患ではありますが、多くの種類があり、大部分は成人がんと異なります。白血病が全体の3分の1と最も多く、以下、脳腫瘍、神経芽腫、リンパ腫、胚細胞腫瘍、網膜芽細胞腫、肝芽腫、ウィルムス腫瘍、横紋筋肉腫、骨肉腫、ユーイング肉腫などからなり、成人に多いがんはほとんどありません。治療成績は過去40年間に大きく改善し、現在では70%～80%以上の患者が治癒するようになりました。これには診断学・集学的治療・支持療法の進歩に加えて、多施設グループ研究を結成しての前向き臨床試験が大きく貢献しました。最近では生命予後の改善に伴い、白血病を乗り越えた長期生存者の生活の質（QOL）の改善が重要になってきました。現在、成人人口の1,000人に一人以上は小児がん経験者といわれ、社会に貢献しています。一方、小児がん患者の診療にはチーム医療が不可欠です。病気の発症時から予後の良否にかかわらず、患者さんと家族を多面的にサポートするトータルケアが必要です。実際、治療現場では医師、ナース、心理士などの医療者のみならず、ソーシャルワーカー、保育士、学校の教諭、CLS（チャイルドライフスペシャリスト）などの非医療者がかかわっています。多施設研究グループについては2015年に血液腫瘍の研究グループJPLSGと、脳腫瘍や神経芽腫などの固形腫瘍研究グループが合体してJCCGが結成され、全国の患者さんの治療成績の向上を目指しています。臨床研究の多くはAMEDの支援を受けています。また、国の施策としては2013年に全国に15ヶ所の小児がん拠点病院が選定されました。ただ、現在でも新薬の開発や長期フォローアップ体制など、いまだ欧米に遅れるものがあります。

皆さまにはこのように成人がんとは疾患も扱いも根本的に異なる小児がんの特徴を知っていただき、サポートをいただければ幸いです。

小児がんでお悩みの皆さん、ご質問お待ちしております。



そえじま けんぞう
副島 研造

慶應義塾大学病院臨床研究推進センター 副センター長、
トランスレーショナルリサーチ部門長、教授

■皆様へのメッセージ

本邦における肺がんによる死亡者数は年間7万人を超え、最も予後が悪いとされているがんの一つです。

進行肺がんでは、抗がん剤による治療が中心となりますが、従来の抗がん剤による治療成績は決して満足のいくものとは言えない状況でした。

しかし、近年分子標的治療薬や免疫チェックポイント阻害薬など様々な新規薬剤が開発され、めざましい治療成績の改善が得られつつあります。

患者さん一人一人の、がんと共存しながら諦めず立ち向かっていく姿勢が、新たな可能性を生む力となります。



おおた けいいちろう
太田 惠一郎

日本医科大学消化器外科 教授

■皆様へのメッセージ

あなたを慰め、あなたの苦痛を和らげ、あなたの病を癒すことに尽くしたいと思います。

共に歩みましょう。

どんな時も、常に前向き思考（志向）で行きましょう。



かまだ ただし
鎌田 正

国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所 臨床研究クラス
タ長

放射線医学総合研究所病院 病院長

■皆様へのメッセージ

最近、新しい放射線治療法としてご質問をいただく機会が多い粒子線治療ですが、保険診療あるいは先進医療として粒子線治療の適応となるがんの病態や治療の内容について、できるだけ正確な情報をお伝えできるようにいたします。



さの けいじ
佐野 圭二

帝京大学医学部外科学講座 教授

■皆様へのメッセージ

がんを撲滅できればそれは素晴らしいことだと思います。がんにかかったとき、闘うか闘わないか、闘うとしたらどのように闘うかを決めるのは皆さんです。闘いたい人の「がんとの闘い」に少しでもお役にたつこと、闘わないと決めた人の「がんと闘わないことに対する不安」を少しでも減らすこと、ができればと思いつつ日々診療しています。

がん撲滅サミット



おかだ なおみ
岡田 直美

国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所
臨床研究クラスター重粒子線治療研究部、腫瘍臨床研究チーム 医長

■皆様へのメッセージ

「不治の病に苦しむ患者さんを救うブラックジャックのような医師になりたい」そんな学生時代の頃の想いは、形を変えて叶いつつあります。

「治らない」と言われたがん患者さんも、正確な現状把握をし、治すための戦略をたて、さまざまな治療を組み合わせること（集学的治療）で治せる時代になりました。その背景には、一つは化学療法、手術、放射線、ラジオ波焼灼術や動注塞栓療法などの局所療法など、すべての分野で医療技術は目覚ましい進歩があります。でも、一番大きな要因は、それぞれの分野のまさにブラックジャックのような先生方と連携をとることで、内科医でも、疑似的にその診療科のパフォーマンスを出すことができるようになったことです。

外科医じゃなくても優れた手術をして頂ければ、患者さんに外科の名医と同じ価値提供ができます。そして、みなさんが思っている以上に今の日本にはブラックジャックと呼べる優れた医師がたくさんいます。

ブラックジャックの本質は、「不治の病を治す医師」ではなくて、「患者さんから命を託された医師の本来あるべき姿」なのだと思います。優れた医療も患者さんとの強い信頼関係があってこそそのものだと思います。



解説

もり まさき
森 正樹

第3回がん撲滅サミット大会副会長、2018年第77回日本癌学会学術総会会長
大阪大学大学院医学系研究科消化器外科学 教授

■皆様へのメッセージ

二人に一人はがんにかかる時代と言われており、最もよく遭遇する病気になりました。昔は若いうちに結核などの感染症にかかり、がんの好発年齢（60歳以上）に達する前に亡くなることがしばしばでした。

しかし、最近は感染症がほぼ克服された結果、長生きする方が増え、それにつれてがんにかかる人の割合が増えてきました。

がんはとても身近な病気です。むやみに恐れることなく、しっかりと学び、もしがんになっても早め早めに対処する姿勢が大切だと思います。



スペシャルゲスト

こばやし ひさたか
小林 久隆

NIH（米国国立衛生研究所）／NCI（米国国立がん研究所）主任研究員

■皆様へのメッセージ

新たながん治療を開発する研究者として、また一人の医師として、がんと闘う新たな、また使い易い武器を患者の皆様提供することが私の使命と考えています。私の提供する武器は、がん細胞に対しては非常に強力でありながら、体に対する負担、治療自体を受けることに対する恐れをできる限り少ないものに仕上げ提供させて頂くことを目指して磨いてまいりました。種々の有効な既存の方法に加えて、この光免疫療法（近赤外線免疫療法）を新たな一つの武器として多くの患者の皆様、近い将来使っていただけますよう鋭意努力してまいります所存ですので、皆様のご協力を頂けると幸いです。どうかよろしくお願いいたします。



スペシャルゲスト

こだま たつひこ
児玉 龍彦

東京大学 先端科学技術研究センター 教授

■皆様へのメッセージ

『次世代 ADC：進行がんの治療プラットフォーム始動！』

再発と転移をとまなう進行がんは、多くの臓器にちらばり、しかも多数の薬に耐性があるため、治療も苦しみが多く治りにくいのです。その寛解をめざすために次世代抗体結合医薬品（Next Generation Antibody Drug Conjugate : NG-ADC）が開発されました。NG-ADCは抗体によってがん細胞をマーキングするバイオ医薬 Cupid（キューピッド）と、診断・治療のエフェクターを運ぶ低分子合成薬 Psyche（サイキ）からなるものです。CupidとPsycheは、自然の世界でもっとも高い親和性をもつストレプトアビジンとビオチンを人体内で使えるように改変し、本年、国際的に特許が成立しました。一方、世界の医薬品会社によって、がん細胞の標的タンパク質に対して、今や300種類をこえる抗体医薬品が開発されています。がん細胞には変異を生み出しやすい幹細胞があり、治療すると、異なる標的タンパク質を発現して生き残る、いわゆるエスケープという現象を起こします。ところが、我々のCupidは最大4種類までの抗体を結合でき、エスケープを許しません。またPsycheは、Cupidでマークされた細胞に診断薬または治療薬をピンポイントに届けられるのです。CupidとPsycheにより人体内での診断と治療を統合して最適のマルチプレックス治療が可能となり、進行がんの副作用を少なくして根治することをめざしています。またα線を放出するアイソトープや、デュオカルマイシンという強力な抗がん剤をピンポイントにデリバリーすることで、これまで治療抵抗性の強かった進行がんも治療できるのです。CupidとPsycheのコア特許は、①ゲノム解読を通じてがん細胞の遺伝子を読むチーム（東大）、②結晶構造を解析するタンパク質構造設計チーム（大阪大）、③抗体を系統的に作成するバイオ医薬品開発チーム（製薬企業）、④低分子有機合成のPsycheチーム（東北大、東大）、⑤アイソトープの診断と治療チーム（ヨテボリ大、東大、アイソトープ企業）の連携でつくられています。それをサヴィッド・セラピューティクス社という知財管理の会社が一括して特許を保有し、Collaborative Technology Development（CTD）でグローバルに製薬企業、大学、病院の参加を呼びかけています。こうしたケースは今や日本発の進行がん治療の協働プラットフォームとして世界的に注目されています。本日は人工抗体に関するお話や、世界のがん撲滅に向けた動き、潮流についてお話ししましょう。

横浜宣言 2017

我々は「がん撲滅」に向けてここに行動を開始する。

今や国民の2人に1人が罹患し、3人に1人が亡くなるといわれるがんは国民病そのものであり、放置すれば国益の損失と共に国家存続の危機を迎えることになる。がんによる死亡率を劇的に低下させ、全国69万人と言われるがん難民を将来的にゼロにする。そのために全国民が願う最善のがん医療社会の構築を実行していくものとする。

我々には具体的に3つの戦略がある。

一つは、「がんの予防・早期発見社会の構築」である。がん予防の知識や意識の普及、啓発活動及びリキッドバイオプシーなどの早期発見技術の実用化を後押しすることでがんの予防・早期発見、適切な治療による完全社会復帰と、生き生きと健康に生きてゆくことのできる社会を作り上げていく。

二つめは「患者一人一人に合わせたプレジジョンメディシンの導入とチーム医療の充実した社会の構築」である。がん医療は今や日進月歩である。現在の標準治療やエビデンスの確立が期待できる分子標的療法・免疫療法、そして世界が注目する日本人発の光免疫治療・人工抗体の活用などの研究と実用化を加速化させることにより、患者と医師が同じチームのメンバーとして同じ方向を目指す医療社会の構築を目指し、日本の「がん医療」を世界のリーダーに押し上げていく。

そして三つめは、がんを克服したサバイバーの皆さんが生き生きと活動できる社会の構築と、小児がんをはじめとする希少がん患者に希望を与える医療の研究開発、実用化への加速化を推進していくことである。

こうした戦略を政府、官僚、財界、医療界、患者、市民の皆さんと、まさにオールジャパン体制で真剣に取り組み、がん克服からやがてがん撲滅を成し遂げるその日まで、我々は勇気と忍耐力を以て本格的に挑戦を開始していくことをここ横浜の地で宣言いたします。

第3回がん撲滅サミット
大会長 武藤 徹一郎

ひとりの商人、無数の使命



www.itochu.co.jp/

『がんに負けるな』

伊藤忠商事は、がんに怯えることなく、負けることなく、働き続けられる環境が社員の活力、組織の活性化に繋がるものとして「がんとの両立支援施策」を推進していきます。

がんになっても、社員一人ひとりが持続してやる気やりがいを持ち、安心して働き続けることの出来る職場を実現すると共に「厳しくとも働き甲斐のある会社。日本一強い会社。」を目指していきます。

『がんに負けるな』

代表取締役社長

岡藤正広

生命保険協会は

超高齢社会を支えていくために
様々な取り組みを進めています。



相談・苦情受付

【生命保険相談所の運営】

生命保険相談所では、生命保険に関する相談や苦情について、お客様の疑問や悩みを整理し、解決に向けたアドバイスを行います。



高齢者への情報提供

【高齢者向け情報冊子の発行】

高齢者を対象とした、保険の加入から受取りに至るまでのあらゆる場面に関する情報や留意点をまとめた情報冊子を発行しています。

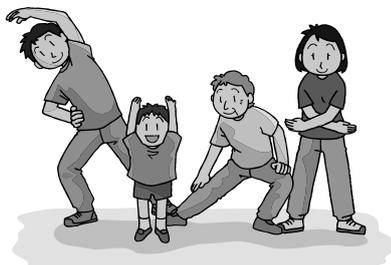


特殊詐欺の注意喚起

【被害防止啓発ポスターの作成】

オレオレ詐欺や架空請求詐欺など特殊詐欺被害防止のための啓発ポスターを作成し、注意喚起を行っています。

健康増進啓発活動



【健康増進啓発プロジェクトの実施】

健康寿命の延伸に向けた啓発活動を積極的に推進するために、「健康増進啓発プロジェクト」を展開し、その一環として、全国各地のウォーキング大会に協賛しています。また、健康づくりに役立つ情報冊子の配布なども行い、健康増進に対する意識の向上に取り組んでいます。

生命保険協会ホームページでは、
様々な情報を掲載しています。
是非ご利用ください。

<http://www.seiho.or.jp>

生命保険協会

検索



再生医療・細胞治療の新拠点、 CPFオープンイノベーションラボ「セラボ殿町」開設



ダイダンの再生医療分野への新たな挑戦

ダイダンはこれまでの技術・知識・経験・実績を生かして、再生医療・細胞治療の産業化拠点「ライフイノベーションセンター」内に、次世代型のCPF（細胞培養加工施設）を備えた「セラボ殿町」を開設しました。セラボ殿町はオープンイノベーションラボとして、再生医療の研究や実用化、それを支える機器開発やサービスを提供される方々にお集まりいただき、より良い生産プロセスを作り出していくための実証、協業の場です。研究者や関連組織・企業が少しでも早く成果を出せるよう、最適な環境を提供致します。

お客様の環境構築パートナー

 **ダイダン株式会社**
<https://www.daidan.co.jp/>



【セラボ殿町・再生医療事業部】

〒210-0821 神奈川県川崎市川崎区殿町 3 丁目 25 番 22 ライフイノベーションセンター R407
TEL: 044-276-5010 FAX: 044-280-0036 e-mail: tech-info@daidan.co.jp

TH総合法律事務所は、新宿駅直結の新宿センタービルに所在する、弁護士10名を有する法律事務所です。

所属弁護士の高橋淳(第3回がん撲滅サミット法律顧問)および光野真純は、がん患者及び良心的ながん専門医を法的観点からサポートする業務を行っております。

取扱業務

- ◆ がん患者の休職および退職に関する法律問題
- ◆ 不当に高額な診療請求等についての対応
- ◆ クレイマー患者等に対する対応
- ◆ 医療法人の経営等に関する法律問題(労務問題を含む)
- ◆ がん患者及び家族に対するサポート
- ◆ その他、がん関連法務全般



第3回がん撲滅サミット 法律顧問
弁護士・弁理士 高橋 淳
(東京弁護士会所属)

1998年弁護士登録。
2003年日弁連知的所有権委員会(現:日弁連知財センター)委員に就任。
2005年経済産業省主催の「営業秘密の適正管理のあり方に関する研究会」の委員に就任。
2005年特許庁工業所有権審議会臨時委員に就任。
2008年日弁連知財センター委員に就任。
2014年工業所有権審議会試験委員(弁理士試験)に就任。



TH 総合法律事務所

TH Law Office

〒163-0631 東京都新宿区西新宿1-25-1 新宿センタービル31階

TEL: 03-6911-0410 FAX: 03-6911-0411

日本建設業連合会は 社会貢献活動を推進しています

アイサワ工業(株)	青木あすなろ建設(株)	あおみ建設(株)	(株) 浅沼組
(株) 安藤・間	伊藤組土建(株)	岩田地崎建設(株)	(株) エム・テック
(株) 大林組	(株) 大本組	(株) 奥村組	オリエンタル白石(株)
鹿島建設(株)	鹿島道路(株)	株木建設(株)	北野建設(株)
(株) 熊谷組	(株) 鴻池組	五洋建設(株)	佐藤工業(株)
三幸建設工業(株)	清水建設(株)	ショーボンド建設(株)	西武建設(株)
(株) 銭高組	大成建設(株)	大成ロテック(株)	大日本土木(株)
大豊建設(株)	高松建設(株)	(株) 竹中工務店	(株) 竹中土木
鉄建建設(株)	東亜建設工業(株)	東急建設(株)	東洋建設(株)
戸田建設(株)	飛島建設(株)	(株) ナカノフード建設	西松建設(株)
(株) N I P P O	日本国土開発(株)	日本道路(株)	(株) 長谷工コ-ポレーション
(株) ピーエス三菱	(株) 福田組	(株) フジタ	(株) 不動テトラ
(株) 本間組	前田建設工業(株)	前田道路(株)	松井建設(株)
(株) 松村組	三井住友建設(株)	みらい建設工業(株)	村本建設(株)
寄神建設(株)	若築建設(株)		

日建連「社会貢献活動協議会」構成 58 社

魅力的なまちづくりの推進や
豊かな住生活の実現を通じ、
日本経済の持続的な成長に
貢献してまいります。

昭和 38 年に社団法人として設立された不動産協会は、国民生活の向上と日本経済の持続的な成長に向け、土地、都市、住生活などに関わる諸問題について、様々な政策提言を行うとともに、調査・研究、社会貢献活動等に取り組んでおります。

日本経済が緩やかな回復基調にある中、今後も、国際競争力のある大都市の創造、魅力的なまちづくりの推進、豊かな住生活の実現、環境への取組み等を通じ、持続的な成長の実現に貢献してまいります。

一般社団法人 **不動産協会**

理事長 菰田 正信

SURVIVOR SHIP

サバイバーシップ

がんと向きあってともに生きること。

〈サバイバーシップとは〉

がんを経験した方が、生活していく上で直面する課題を、
家族や医療関係者、他の経験者と共に乗り越えていくこと。また、そのためのサポート。

大鵬薬品は、がんサバイバーシップを応援しています。



資料請求先 (医薬品情報課)

大鵬薬品工業株式会社

〒101-8444 東京都千代田区神田錦町1-27

<https://www.taiho.co.jp/>

2017年6月作成



移動できる

ベッドサイドに**水洗トイレ**があれば、生活がこんなにも改善されます。

使用者

- 移動負荷の軽減
- 家族や介助者に対する気遣いを軽減
- 日常生活動作 (ADL) の維持・向上
- 最適な位置にトイレを移動できる

介助者

- ポータブルトイレのバケツによる汚物処理が不要
- 介助の負担緩和
- 掃除などの時ひとりでも移動可能



介護保険
購入 介護保険制度
福祉用具購入対象品

ベッドサイド水洗トイレ

セット品番EWRS320 希望小売価格 ¥398,000(税・工事費別)

構成 (同梱品): 本体、ペーパーホルダー、リモコン、給排水継手部材一式

商品やショールーム情報は
WEBサイトをご覧ください。詳しくはこちら

ベッドサイド水洗トイレ

検索

TOTOお客様相談室 ☎0120-03-1010 受付時間 9:00~17:00 (夏期休暇・年末年始を除く)

環境事業

土木

建築

型枠

自然と社会と心の調和そして融合



株式会社 オキ・コーポレーション

〒210-0821

神奈川県川崎市川崎区殿町 2-3-15

TEL 044-280-1701 FAX 044-280-1702

URL www.oki-cp.co.jp

OKI
CORPORATION

代表取締役会長 沖山 朝紀

代表取締役社長 沖山 純子

協和発酵キリン株式会社

たった一度の、
いのちと歩く。



笑顔。それは、世界の人の力になり、支えとなる。癒しになり、救いとなる。
「少しでも多くの笑顔をとげるために協和発酵キリンは、私たちのすべてを尽くします。」

KYOWA KIRIN



Better Health, Brighter Future



タケダから、世界中の人々へ。
より健やかで輝かしい明日を。

一人でも多くの人に、かけがえない人生をより健やかに過ごしてほしい。タケダは、そんな想いのもと、1781年の創業以来、革新的な医薬品の創出を通じて社会ととも歩み続けてきました。

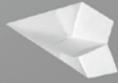
私たちは今、世界のさまざまな国や地域で、予防から治療・治癒にわたる多様な医療ニーズと向き合っています。その一つひとつに答えていくことが、私たちの新たな使命。よりよい医薬品を待ち望んでいる人々に、少しでも早くお届けする。それが、いつまでも変わらない私たちの信念。

世界中の英知を集めて、タケダはこれからも全力で、医療の未来を切り拓いていきます。

武田薬品工業株式会社

www.takeda.co.jp

願いをこめた新薬を、
世界のあなたに届けたい。



「病気と苦痛に対する人間の闘いのために」

わたしたちは、新薬の開発に挑み続けます。
待ち望まれるくすりを、一日でも早くお届けするために。

 小野薬品工業株式会社



イノベーションに情熱を。
ひとに思いやりを。

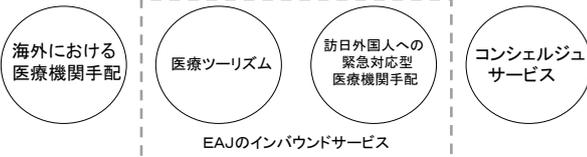


Daiichi-Sankyo



「アシスタンスで
お客様の世界を広げる」

EAJの主要事業



EAJのインバウンドサービス

●提供サービス

①医療ツーリズム

日本の高度医療の受診を希望する外国人患者に対し、日本が強みを持つ高度医療（がんの放射線治療等）を当社独自の医療機関ネットワークより紹介。

日本の医療機関とのマッチングや、医療費仲介、医療通訳の派遣など一連の受入手配業務を実施。

②訪日外国人への緊急対応型医療機関手配

日本滞在中に思わぬ病気や怪我をした外国人に日本の医療機関を直ちに手配。

●実績

2011年に医療ビザの身元保証機関第1号として登録し、国内2社しかない医療渡航支援企業であり、外国人患者受入実績・期間ともに業界のリーディングカンパニー。

日本エマージェンシーアシスタンス株式会社

第11回 日本音楽医療研究会 学術集会 in TOKYO

日本医科大学消化器外科教授
会長 太田 恵一朗

◆ 緩和医療・ケアと音楽

会期 2017年12月10日(日)

10:00~17:00(開場 / 9:30)

会場 聖路加国際大学
アリス・C・セントジョン
メモリアルホール

104-0044 東京都中央区明石町10番1号



第11回 日本音楽医療研究会 学術集会事務局
有限会社メディカル情報サービス東京支社内
194-0046 東京都町田市西成瀬2-1-5
TEL.042-860-6820 FAX.042-860-6810
e-mail : nakagawa613@yahoo.co.jp (担当/中川)





JAPAN AIRLINES



医療法人羅寿久会 **浅木病院**



岡山県極真空手道連盟



届けたいのは「いのち」と
つながるお水です。

ミネラルウォーター

月のしずく

天然温泉 **ゆのさと**

〒648-0086 和歌山県橋本市神野々898
TEL 0736-33-1126 FAX 0736-34-2326
公式ホームページ www.spa-yunosato.com



協賛企業、団体、ご寄付者一覧（順不同）

伊藤忠商事株式会社 様	サノフィ株式会社 様
生命保険協会 様	TOTO 株式会社 様
日本損害保険協会 様	アスピリアン・ジャパン株式会社 様
日本建設業連合会 様	日本航空株式会社 様
不動産協会 様	ダイダン株式会社 様
武田薬品工業株式会社 様	オリンパス株式会社 様
中外製薬株式会社 様	TH 総合法律事務所 様
第一三共株式会社 様	日本エマージェンシーアシスタンス株式会社 様
大鵬薬品工業株式会社 様	株式会社オキ・コーポレーション 様
協和発酵キリン株式会社 様	なだ万株式会社 様
小野薬品工業株式会社 様	医療法人羅寿久会浅木病院 様
帝人ファーマ株式会社 様	株式会社重岡 様
アステラス製薬株式会社 様	株式会社ココ花 様
アストラゼネカ株式会社 様	銀座並木通りクリニック 様
日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社 様	岡山県極真空手道連盟 様
MSD 株式会社 様	医療法人刀水会齋藤記念病院 様

他の皆様、本当にありがとうございました。

謝辞

皆様方のご支援に心より感謝申し上げます。

ご来賓、ご講演者の皆様をはじめ牧野徹先生、丹呉泰健先生、細川恒先生、山内千里様、番匠幸一郎様、谷田部二郎様、経済団体連合会事務総長 久保田政一様、専務理事 濱厚様、総務本部統括会員主幹 井ノ川正明様、東智樹様、経済同友会様、日本商工会議所専務理事 石田徹様、総務部 山内清行様、国立国際医療研究センター理事長 國土典宏様、公益財団法人がん研究会常務理事 榎山博様、総務部総務課 山崎周士様、高橋弘子様、募金課の皆様、公益財団法人がん研究会がん研究所副所長 石川雄一様、一般社団法人 Medical Excellence JAPAN 業務執行理事 北野選也様、読売新聞東京本社編集局医療部部長 山口博弥様、横浜市文化観光局 MICE 振興課長 荒木慎二様、係長 中尾祐次様、がん撲滅横浜市会議員連盟会長 田野井一雄様、横山正人様、日本製薬団体連合会理事長 木村政之様、総務部長増田敏美様、一般社団法人生命保険協会代表理事・副会長 佐々木豊成様、総務部担当部長 宇田川俊秀様、本多洋久様、一般社団法人日本損害保険協会副会長 牧野治郎様、塚本真之様、宇田川友順様、YKKap 顧問 小山田誠太郎様、TOTO 株式会社特販本部長 吉田伸典様、弁護士 高橋淳様、加藤恒也様、三好立様、堀信一様、中見理嘉様、有路友一様、株式会社ワールドクリエーション 満田武敏様、石山隆久様、鈴木松一様ほか、あえてここに御名前を掲載していませんが、第3回がん撲滅サミット開催に当たり、ご尽力をいただきましたことを心より感謝申し上げます。引き続き、がん撲滅サミット 2018 をご支援いただけますと幸いです。

第3回がん撲滅サミット実行委員会一同
＜2017年11月1日現在。敬称略・順不同＞

※本大会で使用する楽曲は、JASRAC のご理解をいただいております。

がん撲滅サミット

『第3回がん撲滅サミットフォローアップ募金受付中！』

本日はご来場いただきまして誠にありがとうございます。次世代のためにも今こそ、我々の世代でがん撲滅に向けた挑戦をオールジャパンで開始しましょう。

只今、第3回がん撲滅サミットの動画のネット配信や報告書作成、がん撲滅サミット2018の準備に向けてフォローアップ募金の受付を開始いたしました！

皆様のご支援をお待ち申し上げております。何卒宜しくお願い申し上げます。

詳しくは第3回がん撲滅サミット (<http://cancer-zero.com>) をご参照ください。

公益財団法人がん研究会有明病院
第3回がん撲滅サミット実行委員会一同

今、日本から始まった
がん撲滅への歴史的挑戦！

がん撲滅サミット® 2018 開催決定！

参加無料(要事前予約) <http://cancer-zero.com>

～夢と希望と勇気を～

平成**30**年**11**月**18**日(日)

開演 **13:00**【開場12:30】

会場 **東京ビッグサイト 国際会議場**

人類約4000年のがんとの戦いに終止符を打て！

後援

厚生労働省、文部科学省、国土交通省、経済産業省、農林水産省、
日本医療研究開発機構、東京都、がん撲滅横浜市会議員連盟、日本医師会、
日本経済団体連合会、経済同友会、日本商工会議所、日本製薬団体連合会、
日本建設業連合会、生命保険協会、日本損害保険協会、
一般社団法人Medical Excellence Japan、読売新聞社 ほか(申請予定・順不同)